

1. Sinfonia

第1曲 シンフォニア

2. Coro

第2曲 合唱

Wir müssen durch viel Trübsal
in das Reich Gottes eingehen.

私たちは多くの苦しみを通り、
神の国に入ることになっている。

(使徒言行録 14 章 22 節)

3. Aria (Alto)

第3曲 アリア(アルト)

Ich will nach dem Himmel zu,
schnödes Sodom, ich von dir
sind nunmehr geschieden.

私は天を目指してゆこう、
いまわしいソドム(現世)よ、おまえとは
きっぱり縁を切って。

Meines Bleibens ist nicht hier,
denn ich lebe doch bei dir
nimmermehr in Frieden.

私の居場所はここではない、
これ以上おまえのそばで暮らしても
私は平和に生きることができないのだから。

Ich will nach . . .

私は天を . . .

4. Recitativo (Soprano)

第4曲 レチタティーヴォ(ソプラノ)

Ach! wer doch schon im Himmel wär!
wie dränget mich nicht die böse Welt!
Mit Weinen steh ich auf,
mit Weinen leg ich mich zu Bette,
wie trüglich wird mir nachgestellt!

ああ、すでに天におられる御方よ、
どうか悪しき世に私を追い込まないで下さい。
泣きながら起き上がり、
泣きながら寝床に身を横たえるまで、
どれほど偽りの世が私を追い回すことでしょう。

Herr! merke, schaue drauf!
Sie hassen mich, und ohne Schuld,
als wenn die Welt die Macht
mich gar zu töten hätte;
und leb ich dann mit Seufzen und Geduld
verlassen und veracht',
so hat sie noch an meinem Leide
die größte Freude.

主よ、ここに心を向け、目を注いで下さい。
世の人々は私を憎み、罪を罪とも思わず、
まるで世の持つ力には
私を抹殺する権限さえあるかのようです。
それでも私は、ため息をついて耐え忍び、
見捨てられ、侮られながら生きています。
しかも彼らは、私の悲しみを
最大の喜びとしているのです。

Mein Gott, das fällt mir schwer.
Ach! wenn ich doch,
mein Jesu, heute noch
bei dir im Himmel wär!

私の神よ、これは私にとってつらいことです。
ああ、いっそのこと私を、
私のイエスよ、今日のうちに
天のあなたのもとに召して下さいよ。

5. Aria (Soprano)

第5曲 アリア(ソプラノ)

Ich säe meine Zähren
mit bangem Herzen aus.

種を蒔くように、したたり落ちる涙に
私は憧れの心を託しましょう。

Jedoch mein Herzeleid
wird mir die Herrlichkeit
am Tage der seligen Ernte gebären.

いつかきっとこの心の悲しみが
私に栄光を産んでくれるでしょう、
幸福な刈り入れの日を迎えるときに。

6. Recitativo (Tenore)

Ich bin bereit,
mein Kreuz geduldig zu ertragen,
ich weiß daß alle meine Plagen
nicht wert der Herrlichkeit,
die Gott an den erwählten Scharen
und auch an mir wird offenbaren.

Jetzt wein ich, da das Weltgetümmel
bei meinem Jammer fröhlich scheint;
bald kommt die Zeit,
da sich mein Herz erfreut
und da die Welt einst ohne Tröster weint.

Wer mit dem Feinde ringt und schlägt,
dem wird die Krone beigelegt,
denn Gott trägt keinen nicht
mit Händen in den Himmel.

7. Duetto (Tenore, Basso)

Wie will ich mich freuen,
wie will ich mich laben,
wenn alle vergängliche Trübsal vorbei!

Da glänz ich wie Sterne
und leuchte wie Sonne,
da störet die himmlische, selige Wonne
kein Trauern, Heulen und Geschrei.

Wie will ich . . .

8. Choral

[Freu dich sehr, o meine Seele,
und vergiß all Not und Qual,
weil dich nun Christus, dein Herre,
ruft aus diesem Jammertal.
Aus Trübsal und großem Leid
sollst du fahren in die Freud,
die kein Ohre hat gehöret
und in Ewigkeit auch währt.]

第6曲 レチタティーヴォ(テノール)

私は覚悟を決めました、
私の十字架を忍耐強く担い続けようと。
私の背負うどんな重荷も
栄光に値しないことはわかっていますが、
神はきっと選ばれた人々に加えて
この私にも栄光を示して下さいでしょう。

今、私は泣き、その一方で世ははしゃぎ、
悲しむ私のそばで楽しげに騒いでいます。
けれどやがて時が来れば、
私の心は喜びにあふれ、
世のほうが慰めを失って泣くことになるのです。

敵と格闘し、打ち合う者には
冠が授けられます、
それはすなわち、神が他ならぬこの私を
手ずからに天に運んで下さることなのです。

第7曲 二重唱(テノール、バス)

どれほどに私は喜ぼう、
どれほどに私は楽しもう、
この束の間の苦しみの時が過ぎ去ったなら。

そこで私は星のように輝き、
太陽のように光を放つ。
そこには、天の至福の喜びを妨げるような、
悲しみも嘆きも叫びも、ありはしない。

どれほどに . . .

第8曲 コラール(合唱)

大いに喜びなさい、私の魂よ、
すべての悩み苦しみを忘れなさい。
今やあなたの主であるキリストが、あなたを
この涙の谷から呼び出しておられるのだから。
苦しみと大きな悲しみの外へ出て、
喜びの中へと入りなさい。
まだ誰の耳も聞いたことがないほどの、
永遠に続く喜びの中へ。

使用楽譜: 第1～7曲、Breitkopf 7146(ヴォーカル・スコア)。第3曲 von dir/und du 交換可能(併記)。

アルフレート・デュルの著書に記載されたカンタータ歌詞との間に大文字使用、句読点レベルを除き、第4曲 上記の併記/und du、第4曲 dränget/drängt, dann/denn、第6曲 Jetzt/Itzt、第7曲 Trauern/Trauren の相違がある。

歌詞の伝承されていない第8曲には新全集版らしきフルスコアに補足記載された歌詞を使用。

日本語表題: 《われら多くの患難を経て》(杉山系)、【われらあまたの苦難をへて】(角倉系)。

復活祭後第3主日(Sonntag Jubilate)。推定初演 1726～8年の範囲内の当該主日、ライブツィヒ。41～3歳。台本作者(詩人)名不詳。

聖書朗読箇所: ヨハネ福音書 16章 16-23節。副次的朗読箇所: ペテロの第1の手紙 2章 11-20節。

コラール: 第8曲 原歌詞不明。対訳のものは、

"Freu dich sehr, o meine Seele" 1/10 Christoph Demantius 1620 によるもの(cf. EKG319T) ;

(Melodie "Werde munter, mein Gemüte": Johann Schop 1642) EKG360M。